

SICORP 日本-仏国

「非医療分野における新型コロナウイルス感染症関連研究」領域

事後評価報告書

1 共同研究課題名

「アジアのコウモリにおける SARS-CoV-2 の起源の調査および解明」

2 日本 - 相手国研究代表者名（研究機関名・職名は研究期間終了時点）:

日本側研究代表者

クリスティアン・ヴィンセノ(京都大学 情報学研究科・助教)

仏国側研究代表者

アレクサンドル・アッサナン(ソルボンヌ大学 フランス国立自然史博物館・助教授)

3 研究概要及び達成目標

本研究は、ウイルスとコウモリの共進化の解析研究として SARS-CoV-2 の起源ウイルスの解明を目的とする。野生コウモリから採取されるサンプルのウイルス遺伝子配列の系統解析から、ウイルスの生物地理学的起源やアジア圏での拡散過程を明らかにすることにより、ウイルスそのものの理解や公衆衛生政策への貢献が期待される。

4 事後評価結果

4.1 研究成果の評価について

4.1.1 研究成果と達成状況

新型コロナウイルスの世界的流行による国内外の交通遮断のために、沖縄、韓国、ベトナムで予定していた捕獲コウモリからのサンプル採取がほとんど実行できなかった。そのために 2021 年 3 月に研究の延長を行い、沖縄やベトナムでのサンプル採取を行った。ところが、日本側研究代表者の健康不良と本人の海外への転出、フランスでの感染拡大が重なり、計画していた遺伝子解析からの系統解析などの結果を得る段階には至っていない。そのため当初計画した研究成果は、ほとんど得られていない。なお、一部のサンプルの仏国側研究代表者への移送は終わっているため、今後の解析に期待できる。日本側研究代表者の論文・口頭発表や特許取得実績はない。

4.1.2 国際共同研究による相乗効果

仏国側研究代表者は SARS-CoV-2 の起源ウイルスとして、コウモリサンプルの解析力は優れており、カンボジアのコウモリサンプルから SARS-CoV-2 の起源に関する研究成果を報告している。本計画は沖縄やベトナムからのサンプル解析を計画しており解析が進んでいけば、高いレベル研究に達した可能性はあった。

4.1.3 研究成果が与える社会へのインパクト、我が国の科学技術協力強化への貢献

研究期間内の研究成果がほとんど得られていないことにより、その成果が与えるインパクトはほとんどないが、この研究者たちが人的ネットワークを維持し、今後、生物地理学的解析を行う活動は期待できる。

4.2 相手国研究機関との協力状況について

日本側研究代表者はヨーロッパに転出後も、仏国側研究代表者との研究協力関係は継続する予定である。しかしながら、日本における研究拠点をなくしているので、わが国との研究協力体制の構築に貢献は少ないと考える。

4.3 その他

パンデミック感染症による今回のようなフィールド調査を伴う国際交流のたび重なる制限、研究代表者の健康不良と海外への転籍による研究遂行の不確実性が表出した例である。今後の研究遂行の状況把握にあたり考慮しないといけなると考える。一方、コウモリの生態学者とウイルス学者等が協力して、さらに進めていくべきテーマである。特に、アジアに多くの種が生息するコウモリを自然宿主とするウイルスの地理学研究として、中国国内には外部研究者が当面踏み込めない状況であるので、中国周辺国のコウモリとウイルスの調査活動研究はきわめて重要である。